

# 慶應義塾大学医学部篤志会会員で死後ご献体いただいた 方々の診療情報を用いた研究に対するご協力をお願い

研究責任者 慶應義塾大学医学部形成外科

教授 貴志 和生

実務責任者 慶應義塾大学医学部形成外科

助教 酒井 成貴

連絡先 電話番号 03-5363-3814(医局直通)

このたび当院では、慶應義塾大学医学部篤志会会員で、死後、ご献体いただいた方々の解剖献体を対象に、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、ご遺族への新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれないご遺族は、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

倫理委員会で許可された日から 2026 年 3 月 31 日までの間に、慶應義塾大学医学部篤志会を通じ慶應義塾大学医学部解剖学教室にご献体頂いた方

## 2 研究課題名

承認番号 20221070

研究課題名 献体遺体を用いた深下腹壁動静脈の解剖の解明

### 3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部 解剖実習室および準備室

### 4 本研究の意義、目的、方法

乳癌に対する乳房切除後に、下腹部の皮膚皮下組織を、栄養血管（深下腹壁動静脈）を含めた状態で採取し（図 1）、胸部で血管吻合を行い移植することで、乳房形態を再建する手術が行われています。この栄養血管の採取に関しては分枝も多いことから、手術中に的確に取捨選択をする必要があります。そのため解剖学的な理解を深めることにより、より安全で、より効果的に手術を進めることができるようになります。本研究では献体遺体を用いて、深下腹壁動静脈に関する肉眼解剖を行うことで、正確な解剖学的構造についての理解を深めることを目的とします。臨床の現場で人間の解剖（特に、血管の走行・分岐や栄養範囲）を詳細に観察することはできず、ご献体を用いてのみこの研究を行うことができます。

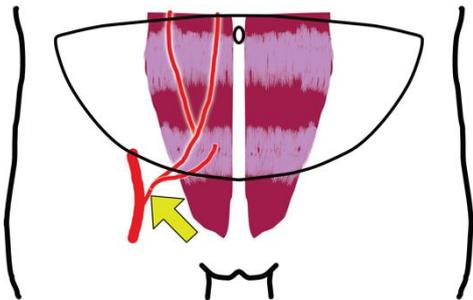


図 1. 下腹部で採取する皮膚皮下組織と栄養血管（矢印が深下腹壁動静脈）。栄養血管は腹直筋内を走行する。

### 5 協力をお願いする内容

上記のような研究を行い、その収集したデータを解析し、学会発表や論文発表をさせていただきます。これらのデータをもとにさらなる医療発展に努めます。従いまして、皆様に新たなご協力をお願いすることはありません。

### 6 本研究の実施期間

倫理委員会で許可された日～2026 年 3 月 31 日

## 7 プライバシーの保護について

本研究で取り扱うご献体の個人情報は性別と死亡時年齢と死因のみです。その他の個人情報(氏名、住所、電話番号など)は一切取り扱いません。

本研究で取り扱うご献体の情報は、第 3 者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。ご献体の個人情報と匿名化データを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

住所:〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 番地

電話:03-5363-3814(医局直通、平日 10 時~16 時対応)

担当者:慶應義塾大学医学部 形成外科学教室 助教 酒井 成貴